

《担当者名》○准教授 / 豊下 祥史 toyosita@ 助教 / 高橋 昌己 mtakah01@

【概 要】

法医学は法律上問題となる医学的事項を解決するための学問である。従ってその領域は広く、基礎医学、臨床医学は勿論のこと、歯学、薬学などに涉り、多くの知識を縦横に活用し、問題解決に当たることになる。本講義では歯科医師として当然持っていない法医学的な知識と、特に、歯科医師が大きな力を発揮する個人識別について学ぶ。さらに、医療事故を起こさないために何を為すべきか、また、起こってしまった医療事故に対し、いかに対応すべきかを医事法学的に学ぶ。

【学修目標】

法医学の定義を理解し、社会における歯科医師の法医学的立場について説明する。
 死体に生じる経時的な現象を説明する。
 人体が受ける様々な損傷を理解し、それぞれの外因死の特徴を説明する。
 死亡診断書と死体検案書の違いを説明する。
 死亡診断書の記載項目と社会的意義を説明する。
 個人識別の意義と個人識別の主たる方法について理解する。
 口腔領域に関連する個人識別の種類と方法について説明する。
 身元不明遺体に関する調査協力依頼書におけるデンタルチャートを解説する。
 基本的なデンタルチャートを記載する。
 白骨死体、指紋、DNA多型解析による個人識別方法について説明する。
 大規模災害時の歯科医師の役割と歯科支援活動について理解する。
 法医学的観点からの歯科医師と社会の関わりについて理解する。
 警察歯科医及び警察歯科医会の組織や活動について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論・死因究明と個体死	- 法医学と法歯学の定義を概説する。 - 死因究明制度を概説する。 - 法医学で定める異常死体について理解する。 - 法医学解剖の種類を理解する。 - 個体死を定義を理解する。	高橋 昌己
2	死体現象	- 早期死体現象、晩期死体現象を概説する。 - 死体に認められる現象を学び、死後経過診断の実際について理解を深める。	高橋 昌己
3	損傷	- 人体に生じる創傷の種類を理解する。 - 部位別の損傷の特徴を理解する。 - 人体に生じる生活反応を理解する。	高橋 昌己
4	熱傷・焼死・凍死	- 異常環境下で生じる人体の障害を理解する。 - 熱傷の深度、面積の算出を理解する。	高橋 昌己
5	窒息・溺死	- 窒息の種類と作用機序を理解する。 - 窒息死体の特徴から自・他殺・事故死の要因を理解する。 - 溺死の機序、死体所見を理解する。	高橋 昌己
6	死亡診断書・死体検案書	- 死亡診断書と死体検案書の違いを理解する。 - 死亡診断書の記載事項を理解する。 - 死亡診断書の社会的意義を理解する。	高橋 昌己
7	中毒	- 中毒を引き起こす化学物質を理解する。 - 中毒死の分類頻度を理解する。 - 様々な中毒死の死体所見を理解する。	高橋 昌己
8	個人識別と身元確認	個人識別の意義と主たる方法について理解する。	豊下 祥史
9	歯科所見と個人識別	- 口腔領域に関連する個人識別の種類と方法について理解する。 - 身元不明遺体に関する調査協力依頼書におけるデンタルチャートの読み方と記載方法について理解する。	豊下 祥史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	歯科所見以外の個人識別	・ 白骨死体からの個人識別方法について理解する。 ・ 指紋による個人識別方法について理解する。 ・ DNA多型解析による各種個人識別方法について理解する。	豊下 祥史
11	大規模災害時の歯科支援活動	・ 大規模災害時の歯科医師の役割と歯科支援活動としての身元確認作業について理解する。	豊下 祥史
12	歯科医師と法歯学活動	・ 法歯学的観点からの歯科医師と社会の関わりについて理解する。 ・ 警察歯科医及び警察歯科医会の組織や活動について理解する。	豊下 祥史
13	虐待とその防止	・ 我が国の虐待の動向を理解する。 ・ 歯科医師が診査すべき虐待所見を理解する。 ・ 虐待防止のために歯科医師が果たす役割を理解する。	豊下 祥史
14	医事法学	・ 歯科医師の業務・義務に関する法令の遵守と罰則規定について理解する。 ・ 医療事故、医事紛争の概要について理解する。 ・ 歯科医師に係る行政処分について理解する。	豊下 祥史
15	法歯学演習	・ 生前の歯科情報のまとめ方を理解する。 ・ 死後の歯科情報のまとめ方を理解する。 ・ 口腔内情報に基づいた身元確認の方法について理解する。	豊下 祥史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験50% レポート50%

【教科書】

なし（講義プリントを配布する。）

【参考書】

「法歯科医学 基礎知識から臨床・災害時の対応まで 第2版」高橋 雅典 監修 末永書店 2022年

「法医学 改訂第4版」福島 弘文 編 南山堂 2022年

「身近な法医学」塩野 寛・清水 恵子 著 南山堂

「日常生活の法医学」寺沢 浩一 著 岩波新書

【学修の準備】

授業内容で扱う項目を参考書等で予習し、基本的用語を整理し理解しておく。（30分）

復習として、講義内で疑問だった点を自分なりに調べる。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)と当該授業科目の関連】

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

豊下 祥史（歯科医師）、高橋 昌己（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

法医・歯学という学問領域の性質上、ルーティンワークとしての実務はないが、警察、自衛隊或いは災害歯科・法医学関係の

専門家による有事や災害に備えた講習会や講演を踏まえ、それらのベースとなる法医歯科学の基本的事項について学生に教育を行っている。また、担当教員は実際に身元確認作業に携わった経験を有しており、歯科領域における身元確認作業の実際について教育を行っている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している